

## 第2 令和3年の刑法犯の特徴的傾向

### 1 刑法犯の認知・検挙状況

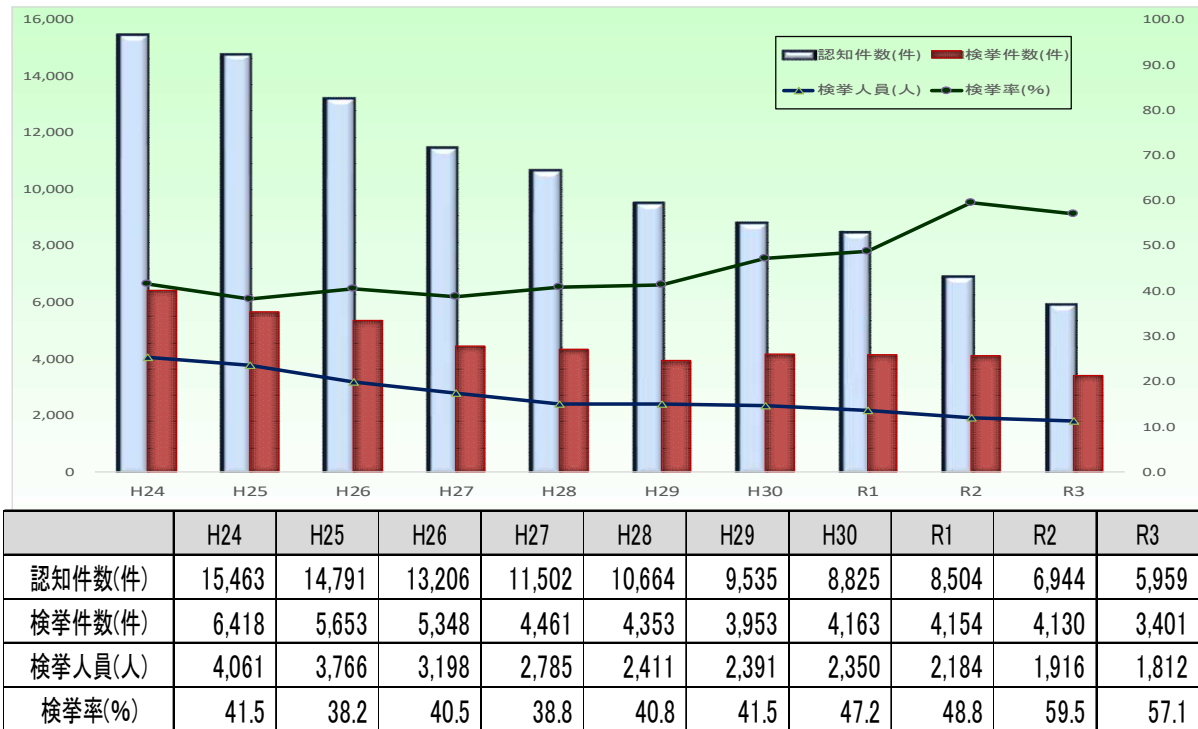
#### (1) 刑法犯全体

令和3年における県下の刑法犯認知件数は、図表2のとおり、5,959件（前年比-985件、-14.2%）と減少し、戦後最少を更新した。

検挙状況は、検挙件数が3,401件（前年比-729件、-17.7%）、検挙人員が1,812人（前年比-104人、-5.4%）、検挙率が57.1%（前年比-2.4ポイント）といずれも減少した。

また、令和3年における全国の刑法犯認知件数は、56万8,104件（前年比-4万6,127件、-7.5%）であり、全国的にも減少傾向となっている。

（図表2）刑法犯の年別推移（平成24年～令和3年）



#### (2) 包括罪種別

県下の認知・検挙状況を包括罪種別にみると、図表3のとおり、認知件数は凶悪犯38件（前年比+2件）と増加し、粗暴犯375件（前年比-58件）、窃盗犯4,188件（前年比-804件）、知能犯360件（前年比-21件）、風俗犯80件（前年比-18件）、他の刑法犯918件（前年比-86件）と減少した。

検挙件数は凶悪犯が4件、粗暴犯が81件、窃盗犯が583件、知能犯が76件、風俗犯が23件減少し、その他の刑法犯が38件増加した。

(図表3) 令和3年の罪種別認知・検挙状況

区分	認知件数 (前年比)	刑法犯中 の占有率	検挙件数 (前年比)	検挙人員 (前年比)	検挙率 (前年比)
凶悪犯	38件 (+2)	0.6%	30件 (-4)	40人 (+5)	78.9% (-15.5P)
粗暴犯	375件 (-58)	6.3%	311件 (-81)	326人 (-78)	82.9% (-7.6P)
窃盗犯	4,188件 (-804)	70.3%	2,479件 (-583)	1,066人 (-47)	59.2% (-2.1P)
知能犯	360件 (-21)	6.0%	219件 (-76)	139人 (+8)	60.8% (-16.6P)
風俗犯	80件 (-18)	1.3%	55件 (-23)	31人 (-17)	68.8% (-10.8P)
その他の刑法犯	918件 (-86)	15.4%	307件 (+38)	210人 (+25)	33.4% (+6.6P)
刑法犯総数	5,959件 (-985)	-	3,401件 (-729)	1,812人 (-104)	57.1% (-2.4P)

## (3) 刑法犯認知件数減少の要因

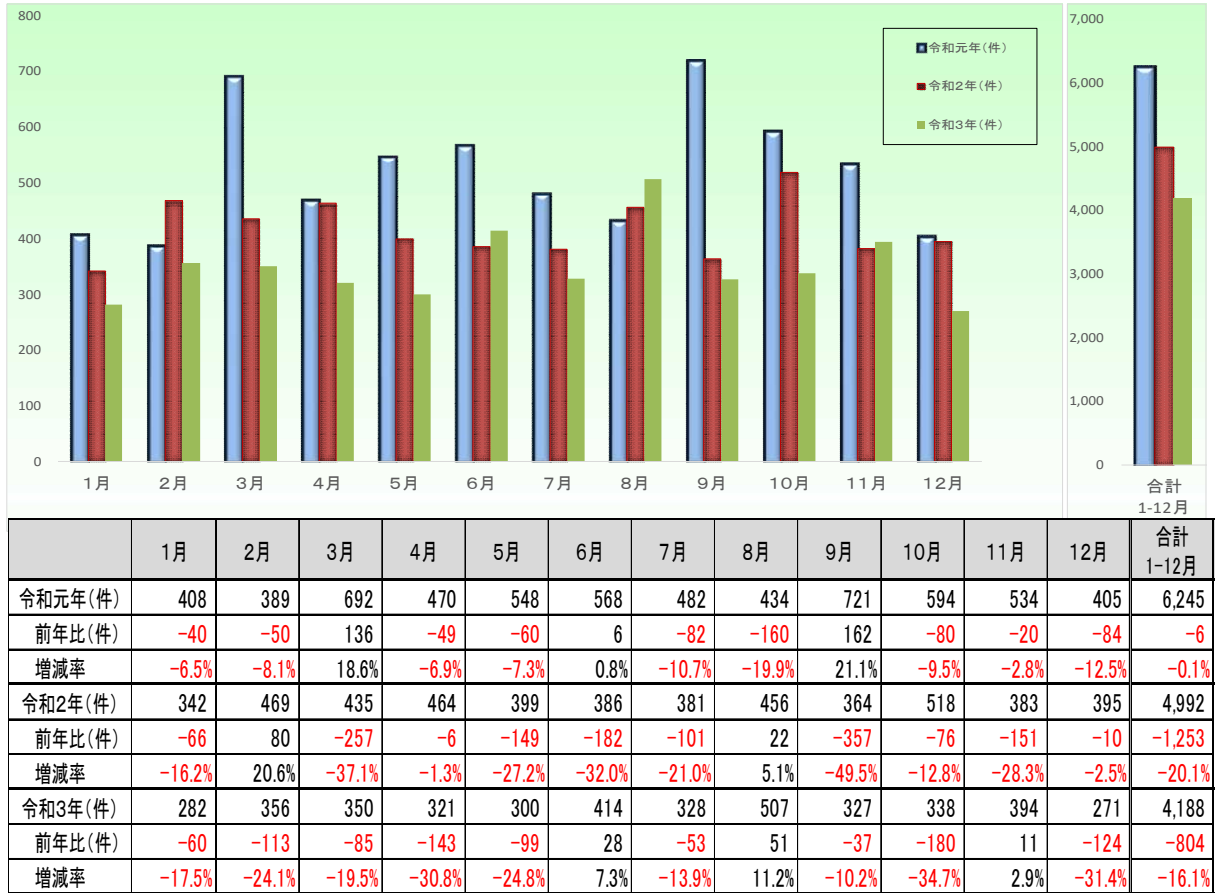
県下の刑法犯認知件数は、図表4-1のとおり、令和2年で前年比-18.3%（平成14年以降で最大の減少率）、令和3年で前年比-14.2%（平成14年以降で3番目の減少率）となった。

(図表4-1) 過去3年の刑法犯認知件数の単月比較

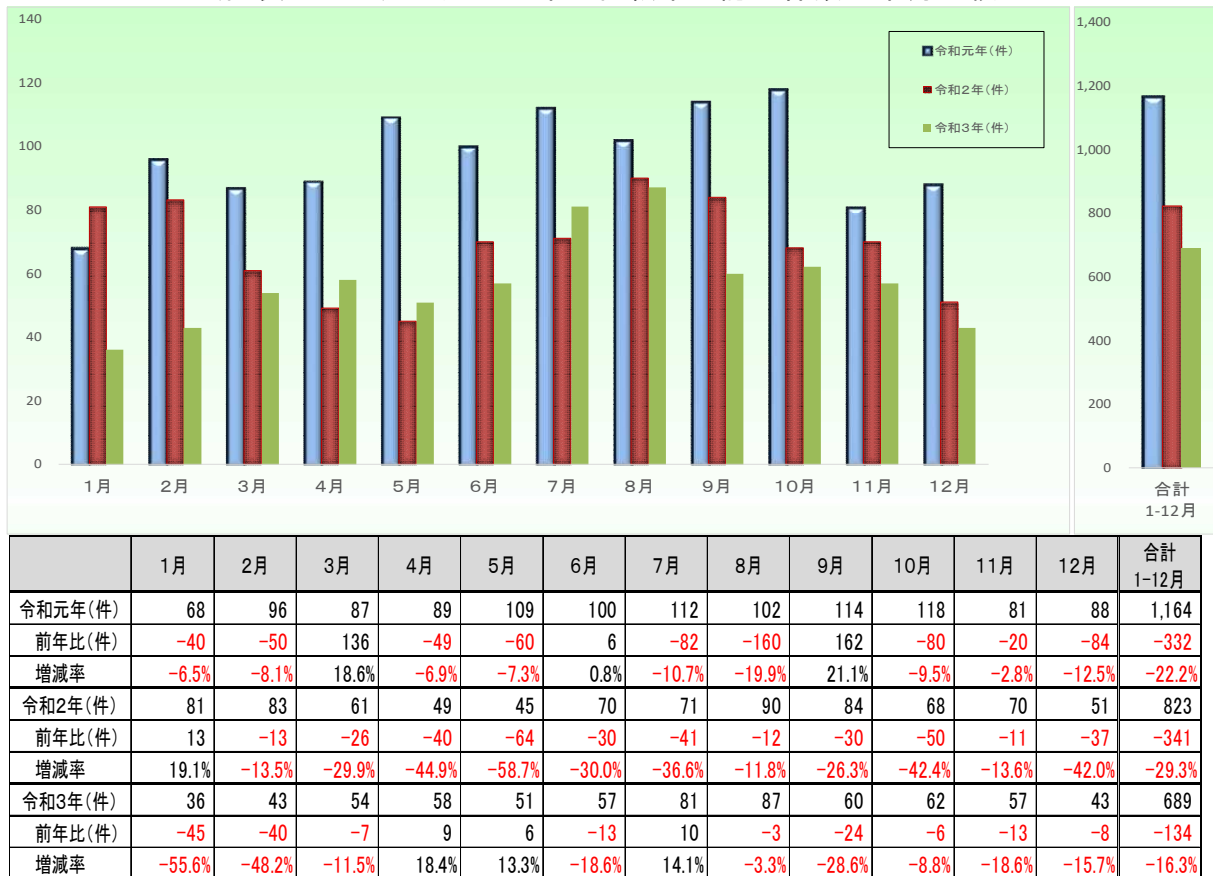


令和3年の刑法犯認知件数の減少は、図表4-2、4-3のとおり、窃盗犯が4,188件（前年比-804件）と最も多く、中でも自転車盗の認知件数が689件（前年比-134件）と大幅に減少した。

(図表4-2) 過去3年の窃盗犯認知件数の単月比較



(図表4-3) 過去3年の自転車盗認知件数の単月比較



新型コロナウイルス感染症の流行が始まった令和2年と比べると減少幅は小さくなっており、官民一体となった総合的な犯罪対策の推進や防犯機器の普及、コロナ禍での外出自粛等による新しい生活様式の定着など様々な社会情勢の変化も刑法犯認知件数減少の一因となった可能性が考えられる。

## 2 重要犯罪の認知・検挙状況

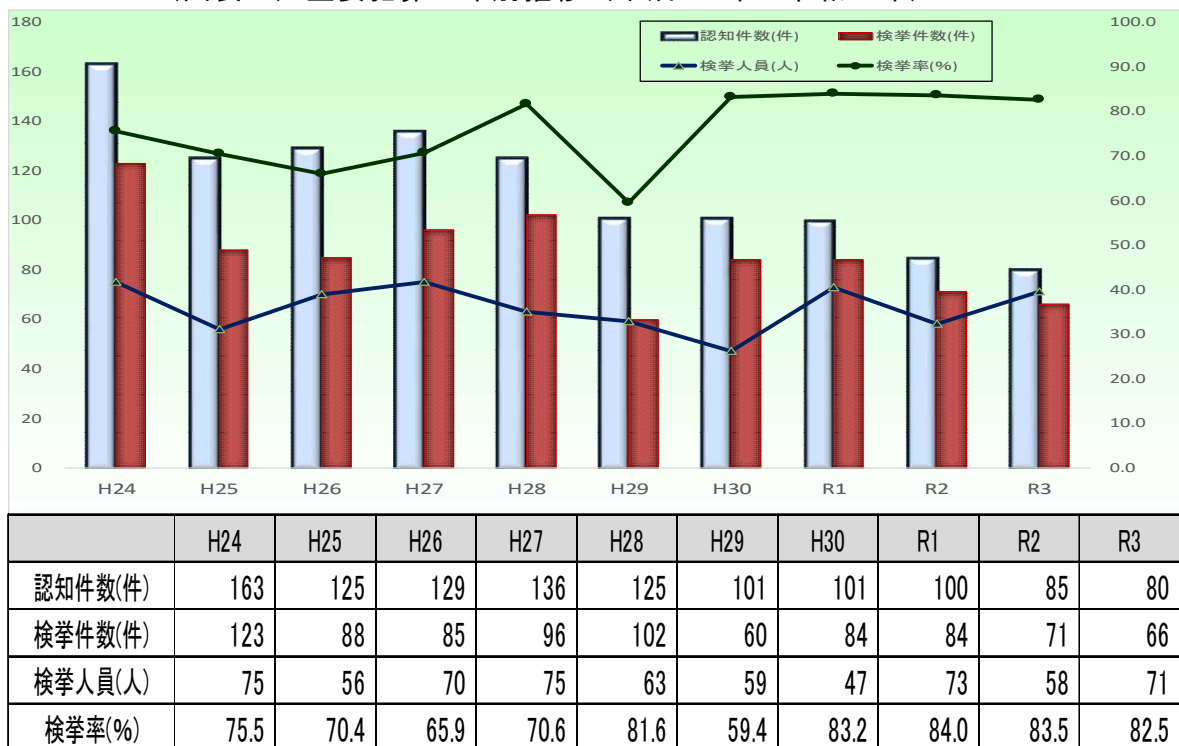
### (1) 重要犯罪全体

警察では、国民の不安感が大きく、生命身体に直接危害を及ぼす危険性の高い犯罪として6罪種（殺人、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買、強制わいせつ）を重要犯罪に指定している。

令和3年における県下の重要犯罪は、図表5のとおり、認知件数が80件（前年比-5件）と減少し、過去10年で最少となった。

検挙人員は増加したが、検挙件数は減少し、検挙率は82.5%（前年比-1.0ポイント）で、前年よりわずかに減少した。

（図表5）重要犯罪の年別推移（平成24年～令和3年）



### (2) 罪種別

重要犯罪を罪種別にみると、図表6のとおり、認知件数は、殺人3件（前年比-6件）、放火9件（前年比-1件）、強制わいせつ38件（前年比-8件）と減少、強盗10件（前年比+1件）、強制性交等16件（前年比+8件）、略

取誘拐・人身売買4件（前年比+1件）と増加した。

検挙率は、殺人、強盗及び放火が減少したが、強制性交等及び強制わいせつが上昇したことで、82.5%（前年比-1.0ポイント）となり、4年連続で80%台を維持した。

（図表6） 令和3年 重要犯罪の認知・検挙状況

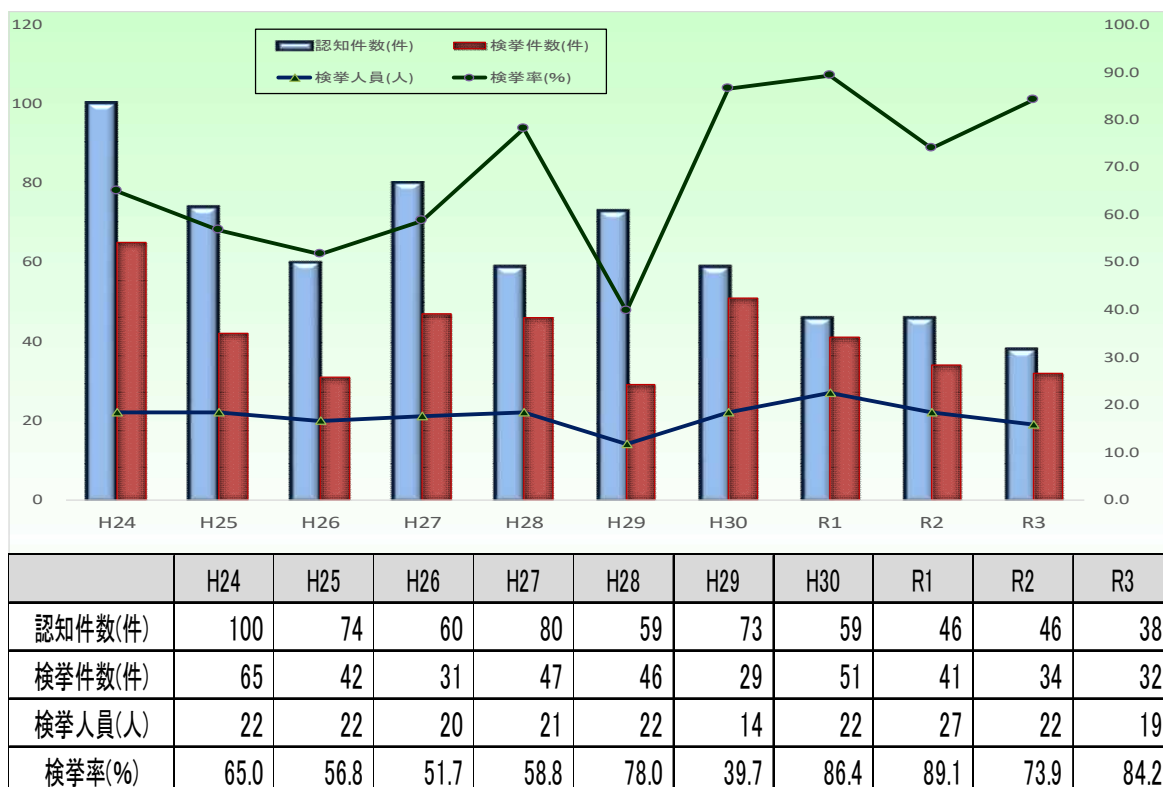
区分	認知件数 （前年比）	重要犯罪中 の占有率	検挙件数 （前年比）	検挙人員 （前年比）	検挙率 （前年比）
殺人	3件 （-6）	3.8%	2件 （-6）	2人 （-6）	66.7% （-22.2P）
強盗	10件 （+1）	12.5%	6件 （-4）	15人 （+2）	60.0% （-51.1P）
放火	9件 （-1）	11.3%	7件 （-2）	5人 （-2）	77.8% （-12.2P）
強制性交等	16件 （+8）	20.0%	15件 （+8）	18人 （+11）	93.8% （+6.3P）
略取誘拐 人身売買	4件 （+1）	5.0%	4件 （+1）	12人 （+11）	100.0% （0.0P）
強制わいせつ	38件 （-8）	47.5%	32件 （-2）	19人 （-3）	84.2% （+10.3）
重要犯罪 総数	80件 （-5）	-	66件 （-5）	71人 （+13）	82.5% （-1.0P）

### （3） 強制わいせつ

当県の重要犯罪は、認知件数の約半数を強制わいせつが占めており、重要犯罪の各数値に大きな影響を与える要素となっているのが特徴である。

県下の強制わいせつは、図表7のとおり、認知件数38件（前年比-8）、検挙件数32件（前年比-2件）と減少したが、検挙率は84.2%（前年比+10.3ポイント）と上昇した。

（図表7） 強制わいせつの年別推移（平成24年～令和3年）



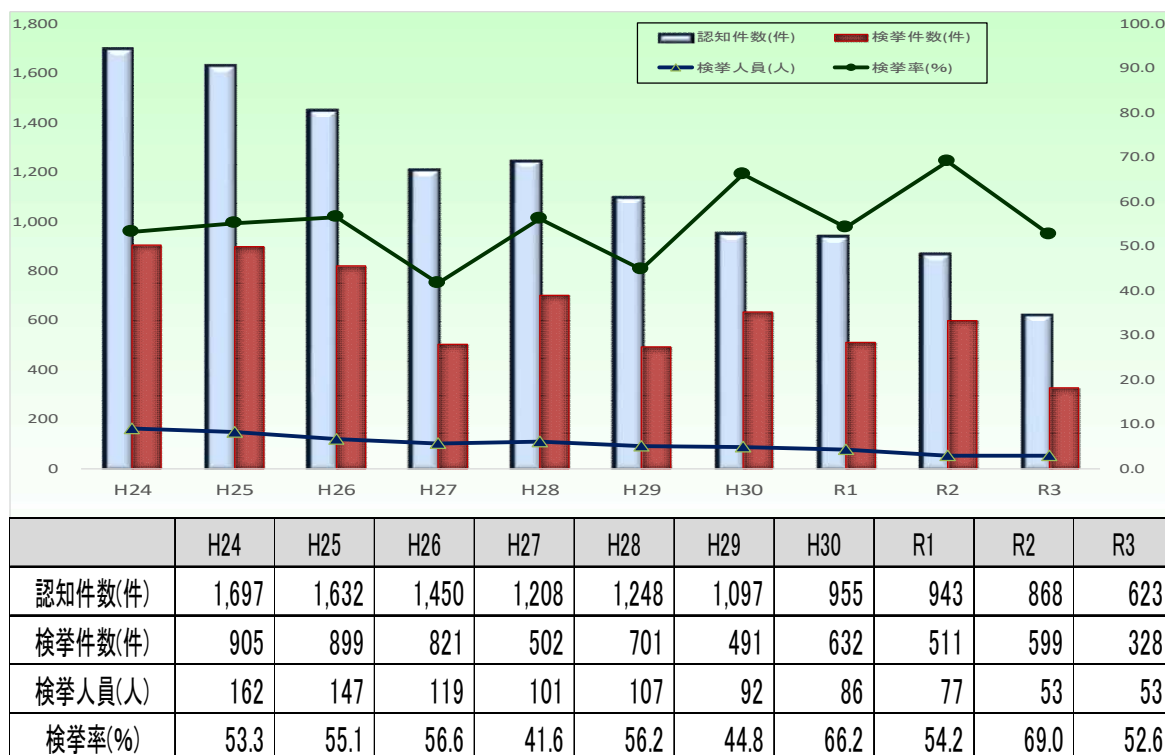
### 3 重要窃盗犯の認知・検挙状況

#### (1) 重要窃盗犯全体

重要犯罪と同様、警察では個人の財産を侵害する度合いが高く、国民の脅威となっている窃盗罪のうち、侵入窃盗、自動車盗、すり、ひったくりの4類型を重要窃盗犯に指定している。

令和3年における県下の重要窃盗犯は、図表8のとおり、認知件数が623件（前年比-245件）、検挙件数が328件（前年比-271件）と減少し、検挙率も52.6%（前年比-16.4ポイント）と減少した。

（図表8） 重要窃盗犯の年別推移（平成24年～令和3年）



#### (2) 類型別

重要窃盗犯を類型別にみると、図表9のとおり、認知件数は、侵入窃盗が577件（前年比-246件）と減少、ひったくりが2件（前年比+1件）と増加し、自動車盗が42件（前年比±0件）、すりが2件（前年比±0件）と前年同数であった。

検挙率は、侵入窃盗の検挙件数が311件（前年比-249件）、自動車盗の検挙件数が15件（前年比-21件）と減少したことで、52.6%（前年比-16.4ポイント）と減少した。



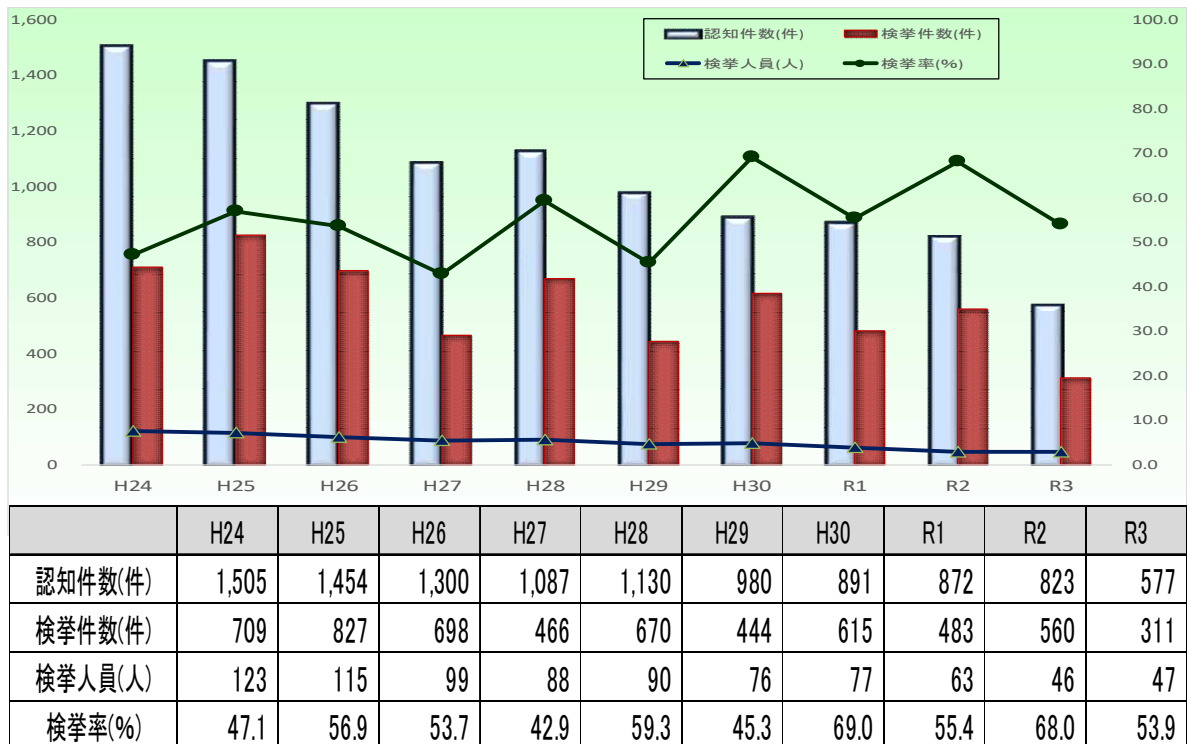
(図表 9) 令和 3 年 重要窃盗犯の認知・検挙状況

区 分	認知件数 (前年比)	重要窃盗中 の占有率	検 挙 件 数 (前年比)	検 挙 人 員 (前年比)	検 挙 率 (前年比)
侵入窃盗	577 件 ( <span style="color:red">▼</span> -246)	92.6%	311 件 ( <span style="color:red">▼</span> -249)	47 人 ( <span style="color:green">▲</span> +1)	53.9% ( <span style="color:red">▼</span> -14.1P)
自動車盗	42 件 ( <span style="color:green">▲</span> 0)	6.7%	15 件 ( <span style="color:red">▼</span> -21)	5 人 ( <span style="color:red">▼</span> -1)	35.7% ( <span style="color:green">▲</span> -50.0)
ひったくり	2 件 ( <span style="color:green">▲</span> +1)	0.3%	2 件 ( <span style="color:green">▲</span> +2)	1 人 ( <span style="color:green">▲</span> +1)	100.0% ( <span style="color:green">▲</span> +100.0P)
す り	2 件 ( <span style="color:green">▲</span> 0)	0.3%	0 件 ( <span style="color:red">▼</span> -3)	0 人 ( <span style="color:red">▼</span> -1)	0.0% ( <span style="color:red">▼</span> -150.0P)
重要窃盗 総 数	623 件 ( <span style="color:red">▼</span> -245)	-	328 件 ( <span style="color:red">▼</span> -271)	53 人 ( <span style="color:green">▲</span> 0)	52.6% ( <span style="color:red">▼</span> -16.4P)

## (3) 侵入窃盗

県下の侵入窃盗は、図表 10 のとおり、認知件数が 577 件（前年比-246 件）、検挙件数が 311 件（前年比-249 件）と減少し、検挙率は 53.9%（前年比-14.1 ポイント）と減少した。

(図表 10) 侵入窃盗の年別推移（平成 24 年～令和 3 年）



#### (4) 侵入窃盗の手口別認知状況

県下の侵入窃盗を手口別で見ると、認知件数は、図表11のとおり、空き巣が126件（占有率21.8%）で最も多く、空き巣、倉庫荒し、出店荒し、事務所荒しの4手口の認知件数が全体の約6割を占めている。

(図表 11) 侵入窃盗の手口別占有率

